令和6年度「新居浜を明るくする運動」に係る作文に応募いただいた皆さま、ありがとうございました。惜しくも入選に至らなかった作品をこちらに掲載いたします。ぜひご覧ください。

「知って、伝えるということ」

北中学校　３年　　戒田　橙子

「犯罪や非行のない明るい新居浜づくり」という言葉を聞いたとき、私はそれが具体的にどのようなことなのか、よく分からなかった。

私の身近なところには、犯罪や非行はない。

おそらく、新居浜に住む多くの学生も「自分の周りには犯罪や非行がない」と言うだろう。

だからと言って新居浜に犯罪や非行がないかと言われれば、絶対にそんなことはないのだが、どうしても実感が湧かない。実感は湧かないけれど、新聞やニュースを見ると、毎日のように事件が起こっている。実感は湧かないのに「ある」。何とも不気味な話だ。

テレビで報道される、いわゆる加害者の人たちが、犯罪や非行をした理由もよく分からない。なんでそんなことをしたのだろう。何もいいことなんてないのに。テレビを見るたびにそう思う。「罪を犯してしまった人にも、なにか事情があるのだろう」と考えてみることもしたが、自分がその人と同じ立場だったとして、わざわざ犯罪にまで手を染めるとは思えない。

実感が湧かない。本当にあるのかどうかすら分からない。私にとって犯罪や非行は、そんな朧げな存在だ。

でも、犯罪や非行について、私のように朧げな考えしか持っていない人が多いからこそ、犯罪や非行はなくならないのかもしれない。

よく分からないものを「なくす」と言われても、行動に移すのは難しい。だから、私は犯罪や非行のことをよく知ることから始めようと思った。

知ること自体は、それほど難しいことではない。本や資料で調べることもできるし、インターネットで手軽に調べることもできる。

問題は、知った後だ。たった一人が犯罪や非行についての知識を蓄えただけで、犯罪や非行がなくなるとは到底思えず、知った後に何かしらのアクションを起こさなければいけないと私は考える。

知った後、周りに非行をしている人や、法に触れる行為だとは知らずに犯罪を犯してしまいそうな人がいたら、注意する。直接注意とまでいかなくても、親や先生に相談する。この方法なら、非行や犯罪防止にダイレクトに貢献することができるが、いかんせ

んハードルが高いように思える。
　知った後に起こす行動として一番ハードルが低いのは、「知った情報を周りに伝える」ことだと思う。非行や犯罪の防止に直接貢献できるわけではないかもしれないが、一番確実で、地道な方法だ。
　自分が書籍やネットで得た非行や犯罪についての知識を、他の人に教える。その人がまた別の人に教える。そうやって非行や犯罪への知識が広まっていけば、新居浜から犯罪や非行がなくなる日も遠くない。
　新居浜に限らず、世の中には、悪気なくやった行為が犯罪につながることがある。そんな悲しい事件の防止にも、情報を広めるということは大いに役立つことだろうと思う。
　犯罪や非行に対する知識不足で起こった事件は、私が知っているだけでもとても多い。そんな事件が、一刻も早くなくなることを期待したい。

「責めすぎず、尊重し合おう」

南中学校　３年　　永見　知輝

　僕は最近、たくさんの悲しいニュースを耳にします。交通事故や殺人、窃盗、詐欺。数えればきりがありません。僕は、これらの事件について、起こってほしくないと願ってはいますが、とても強い興味を持っているわけではありません。起こってしまった事件は、警察や当事者を中心に解決されるものであって、自分にできることは無事に解決するように見守ることだと思っているからです。
　ニュースを耳にしたとき、僕が一番ひっかかるのは、街頭インタビューです。犯罪について批判的な意見が多くなるのは仕方のないことだと思います。しかし、一方で、「その人のことをよく知っているわけでもないのに、なぜそんなに強く批判するのだろう」とも感じます。
　強い批判が、望まないような悲しい結果を生むこともあります。僕は以前、ＳＮＳ上の中傷が理由で、自ら命を絶ってしまったというニュースを目にしました。インターネット上では、発信した情報がすぐに拡散され、炎上することもあります。誰もが発信者になれる現代では、発信する側が内容に配慮することはもちろん必要です。しかし、受け取る側も気を付けることはあるはずです。ＳＮＳでの中傷の裏には、情報の内容に過敏すぎるのに、「発信者が生きた人間であること」に鈍感すぎるという、受け取る側の感覚のズレがあるのではないでしょうか。強すぎる批判や暴言を浴び続ければ、人の心は傷つき、追いつめられていきます。こんなことを繰り返しても、きっと誰も幸せになれません。
　では、誹謗中傷や犯罪などを減らすには、どうすればいいのでしょうか。僕は、「心

に余裕を持ち、相手を思いやること」が必要だと考えました。毎日の生活が、すべて自分の思い通りになることはまずありません。思い通りにならないことにストレスや不満を感じそれを犯罪や誹謗中傷によって解消する。本人は一瞬スッキリするかもしれませんが、あとから後悔するだけです。犯罪や誹謗中傷は自分も、周囲も不幸にしてしまいます。

たしかに、思い通りにならず、不満やストレスを感じることは誰にでもあります。だがらこそ、「お互いが支え合おう」という広い心を持ち、相手を大切にすることが重要ではないでしょうか。例えば、「ありがとう」や「ごめんなさい」を相手にきちんと伝える。周囲を気にかけ、協力し合う。毎日の挨拶ひとつをとっても、相手を大切にしていれば、笑顔で行えるはずです。

僕は、二年生の三学期から、生徒会役員として活動しています。生徒会の仕事は、多岐にわたっています。生徒総会の運営のような学校全体を動かす仕事もあれば、毎日の放送や国旗・校旗の掲揚など、細やかな仕事もたくさんあります。うまくいかず悩むこともありますが、役員の仲間同士が協力し合うことで、なんとか乗り越えてきました。

生徒会の仕事の一つに、「朝のあいさつ運動」があります。生徒会役員は学校周辺の道路に立ち、生徒や地域の方に挨拶をしています。僕は明るい声で、相手を見て挨拶をすることを心掛けています。相手を大切にしようと思うと、自然とそうなっていました。こちらからした挨拶が返ってくれば嬉しいし、地域の方にも笑顔で声を掛けていただいた時は達成感を感じます。挨拶をしたお互いが笑顔になれば、互いを気遣う輪が広がるようにも感じています。

広い心で、相手を尊重する。認め合い、支え合う。これを大切にすれば、相手を責め過ぎることもなくなり、犯罪をストレスのはけ口にすることも減るのではないでしょうか。誰もが大切にされる明るい社会を実現するために、自分にできることから始めていきましょう。

「デジタルよりもアナログで」

南中学校　２年　　藤田　紗羽

皆さんは、自分の時間の使い方について考えたことがありますか。中学校に入り、勉強に部活に習い事にと、毎日が慌ただしく過ぎていきます。土日の休みが毎週楽しみです。やっときた自由な時間、ふと気がつくと、スマホを触っていることに気がつきました。

最近の自分を振り返ってみると、スマートフォンやタブレットなど、インターネットの利用が日に日に多くなっているような気がします。スマートフォンやタブレットは、

遠くにいる人と会話ができたり、ほしい情報がすぐに手に入ったりと、確かに便利なツールです。私も、スマートフォンに強い憧れを抱き、ほしくてほしくてたまりませんでした。そんな私がスマートフォンを買ってもらったのは、中学一年の終わり頃でした。スマートフォンを買ってもらったときは、友達との通話はもちろん、ユーチューブを見たり、英語の勉強もアプリを使ったり、宿題が終わったあとも、ずっとスマホを触っていました。

スマートフォンを使用するようになって感じたことがあります。それは、家族とコミュニケーションをとる時間が減ったということです。今まで妹たちと遊んだり、家族と話をしたりしていた時間は、動画やＳＮＳを見る時間になっていきました。そんな私を見かねた母が、「スマホを使う時間が多すぎない」といいました。今思えば、確かに、スマートフォンの使用時間は、日に日に長くなっていました。しかし、その時の私は親の言葉を素直に認められず、「やることはやっているのだから、スマホぐらい自由にさせてくれてもいいじゃない」と思っていました。ですが、言われたことをじっくり考えてみると、私がスマートフォンを見ているときは、家族の話を適当に聞いていたり、お手伝いを頼まれても、嫌な顔をしたりと、反省すべきことがたくさんありました。それからは、スマートフォンの使い方について改めて考え、使用する場所や時間なども自分で制限し、家族との関わりを大切にすると決めました。

私は、家族との団らんで得たものがたくさんあります。ちゃんと顔を見合わせて話すことで、言葉では伝わらない思いを理解することができます。相手の表情がよく分かり、お互いの感情を共有することができます。これは、文字だけのメールや小さな携帯の画面を通してでは伝わりにくいものだと思います。表情や声を通して相手を感じながらの会話は、本当に楽しいです。スマートフォンで動画を見ることもストレスの発散になりますが、家族と話していると私はとても落ち着きます。学校で落ち込むことがあっても、家族に聞いてもらいアドバイスをもらうと、とても気が楽になります。これは、顔を見て話したり、お互いに笑い合ったりすることの効果だと思います。

私は、インターネットの利用が多い現代だからこそ、家族との関わりや、人と実際にあって、会話をすることがとても重要だと思っています。インターネットの中にはたくさんの情報が入っています。しかし、その中のほんの一部の、自分に都合の良い情報ばかり集めてしまうような気がします。そのために、新しい発見をしにくくなったり、自分の視野が狭くなったりするのではないでしょうか。

インターネットが、これから生きていく上で、とても重要なものになることは間違いありません。しかし、本当に必要なことは、人の話にしっかりと耳を傾け、人間関係を作っていくこと。機械に囚われることなく、大切な人と過ごす時間を大切にすることが、これから生きる社会をよりよいものにしていくのだと思います。私は、デジタルよりも、アナログな人との関わりを大切にしていきたいです。

「当たり前で難しいこと」

南中学校　１年　　中島　右惺

　小学六年生のときに学級委員だった僕は、クラスのお楽しみ会で司会をすることになりました。
お楽しみ会をしようと決めたときには、みんな「やりたい」と言っていたのですが、いざお楽しみ会で何をするかの話し合いになると、三人の友達は協力してくれましたが、他の人は参加してくれませんでした。困った僕は、多数決を採ることにしました。手を挙げてくれたのは、三十人中十人ほどでした。ほとんどの人が、友達同士でたくさんおしゃべりをしていたのに、多数決には参加してくれなかったのです。僕は少し怒りがわいてきました。
結局その日は時間が無くなってしまい、お楽しみ会で誰がどの担当をするか決まらないまま、本番をむかえることになりました。
お楽しみ会当日、僕は気持ちを切り替え、思いきりみんなで楽しもうと張り切っていました。途中までは順調でしたが、予定していた缶けりは、場所が無くてできなくなりました。
そこで、代わりに何をするか話し合うことになりました。しかし、みんなからは「宿題がしたい」「寝たい」など、お楽しみ会とは関係のない意見がたくさん聞こえてきました。僕は、みんなで一緒に楽しもうという気持ちがないのかと悲しくなりました。「早くしろや」と、誰かが叫びました。その一言で、僕の心は折れてしまいました。
席についた僕はこらえきれなくなって、涙がどんどんあふれてきました。「勝手にしろ！」と悔しさと怒りが爆発しました。涙が止まらない僕に、「早くしろや」と言った男の子が近づいてきて、「相談してくれればよかったのに」と言いました。「お前のせいだろ」と心の中で叫びました。
お楽しみ会が終わって、家に帰った僕は、このことを家族に話しました。「よく頑張った」と言われました。その一言で、頑張ってよかったと思えました。そして、何よりうれしかったです。僕は、家族の支えがあったからこそ、このお楽しみ会での出来事を乗りこえられたのだと思います。
誰かが支えてくれたり、応援してくれたりすること、それがほんの少しあるだけで救われる人が、何千、何万人といます。だから、みんなが困っている人に優しく声を掛け、手を差し伸べられたら、きっと社会は明るくなると思います。ここで大切なことは、支えられることが当たり前だと思わず、感謝の気持ちを忘れずに伝えることです。
それと、意見を言うときに、相手のことを考えて話すことです。相手が聞いたらどう思うか、傷つけはしないかを考えて話せば、互いに誤解を招くことも無くなり、意見の食い違いで争いが起こることも少なくなります。このような一人一人の当たり前で当たり前でない心掛け、その積み重ねが、今よりもっと明るい社会へとつながるのです。

「コミュニケーションの大切さ」

東中学校　２年　　小野　青蘭

　みなさんは人と人とのコミュニケーションを大切に考えて生活できていますか。コミュニケーションといっても難しく考える必要はないと思います。まず、私達の誰にでもできることとして一番にあいさつがあると思います。朝、出会う時に「おはようございます。」と知らない人に声をかけるのは少し勇気がいるけれど、思いきってするとさわやかな気持ちになります。最初は返事が戻ってこなくても毎日続けていると相手からあいさつが返ってきた時は幸せな気持ちになります。

友達とのあいさつでも、毎日同じあいさつだけど声のトーンが低かったり元気があまりなさそうと、友達の変化に気付く事もあります。その時に一言、「今日元気なさそうだけど大丈夫なの。」とかけると、友達が「大丈夫。ありがとう。」と笑顔を見せてくれた事があります。あの時、あいさつだけで終っていたら友達も暗い表情のままだったのではないかと思います。

人間、誰でも人から気配りをされて嫌だと感じる人はいないと思います。誰からも興味や関心を持たれていないと孤独を感じ続けてしまうと思うし、私なら寂しくてたまらなくなると思うからです。コロナ禍でよくソーシャルディスタンスという人と人との距離を取るようにと日々言われ続けてきた私達ですが、人と人との心の距離までとる必要はないと思う。だからこそ、積極的にあいさつをすることで人と人とのきずなを深めていかなければならないはずです。

今、社会の中ではスマホやデジタル時代という便利だけど人間の温かさに触れる機会が失われつつあり、私達人間にとってとても残念な事も多くなりました。例にとってみれば、年賀状や手紙を書く機会が減ってきた現実。私も経験があるのですが、字や絵で気持ちのこもった手紙はもらうと心が温かくなります。私の中ではお守りのようになっている手紙もあります。スマホのメールやラインとは違って一つ一つていねいに書かれている文字を読んでいるだけで元気がでたりします。自分の事を大切に想っていてくれているんだと自信にもつながります。スマホのゲームの機械が相手ばかりでは、人の痛みすら気付けない心になってしまいそうです。

人間は１人では生きていけないし、誰かに助けられているものだから、困っている人がいたら、自分には関係がないからとさけるのではなく、私はあなたの事を心配しているよと心から寄り添える事が大切だと思う。寂しくて悪い道に進もうとしている友達に出会ったら放っておかず私は真剣に相談を聞こうと思います。自分を信じてくれている仲間がいたら必ず立ち直れるはずだと思うし、あきらめて仲間が犯罪に手をそめる最悪の結果は見たくないです。そのためにも人と人とのコミュニケーションを大切に人から信頼される人間になりたいです。

私達、東中学校がずっと力を入れてきているあいさつ運動やうぐいす運動の活動を通じ

て地域や周囲の人々とのネットワーク作りに積極的に参加していきたいと思います。

「犯罪や非行をなくすために」

東中学校　２年　　原田　彩加

　あなたは犯罪や非行を犯した事はありますか？それを犯した人の立ち直りを考えた事や、無くすための方法を考えた事はありますか？今回のテーマは社会についてのテーマで、思いついたのはこの問いかけでした。それで自分がこの作文に書こうと思った事は、三つです。

　一つ目は、犯罪や非行はなぜ起こるのか、です。簡単に自分が思いつくのは、物を盗む万引き、殺人、メールやＳＮＳなどによる誹謗中傷です。これらが起こる理由は説明のつかない物もあるけど、お金がなく食べる物が欲しかった、嫌い、軽い気持ちの遊び心だった。殺人などは、ネットや人間関係による言葉の殺人（自殺）、相手に気にくわないことがあり、殺す（他殺）が自分的に考えられました。このことを根から解決するのは難しいのもあるけど、一人がそのような行動をしなければ起こること自体無いと思いました。

　この話題について関連する物で二つ目は、良い地域社会作りについてです。一つ目でも書いたとおり、一人がそのような行動をしなければ起こる事も少ないし、少しは社会も安心になるんじゃないかなと思います。自分の思う良い地域は犯罪や非行が無く、お金や食、住に困る事が無い安心、安全な社会です。もちろん実現するのはすべての事について、急に変われる物ではないし時間もかかります。だからこそ、その時間の間に一人が何をできるかが重要になってくると思います。

三つ目は犯罪や非行を犯した人達の立ち直り方です。実際に犯した事は無いから、本当の心境や感情は分からないけど、どんな犯罪や非行も本人がやろうと思ってしている最低な事というのは共通だし、どのような事もされた側や親族の方々も傷つきます。立ち直るという事は自分の犯した罪かどれだけの物か、そしてやられた側の気持ちは、その罪より、どれだけ重たい物か、理解が必要です。人の心を分かろうとするのは難しい事だけど、完全には人は人を理解できないのは当然の事です。一番立ち直りがお互いに不完全になると思うのは、ネットやＳＮＳなどの分類です。投稿した物や書き込み、メールは自分の中では消除できるけど、相手の記憶や感情の気持ちは一生消除などできません。ネットの世界はとても怖いもので、一人に二人、三人に四人だって何人にでも広める事ができてしまいます。もちろんその悪い事を書く人が一番悪いけどそれを広めて、投稿して、書き込んでその後には何が残るでしょうか。どのような感情がお互いに出てくると思いますか。立ち直るにはほとんど不可能だと思います。

最後に犯罪や非行はどんな理由であれど、やってはいけない事です。このような事を無くしていき、安心、安全な世の中、社会を作るために、一人一人の努力が種になって大きく花を咲かせられたらいいなと思いました。

「明るくなるために」

東中学校　２年　　星加　咲絢

　私が、新居浜市を明るくするためには、新居浜市に遊園地をつくればいいと思います。新居浜市には、遊園地がなく遊園地に行くには、香川県など県外に行かなければなりません。県外に、行かなくてすむように、遊園地をつくるべきです。それに、夏休みなど、県内に遊園地があると、少ないお金で行くことができます。遊園地に行くことによって、仕事とかでイライラしていても、リフレッシュすることができます。県内にあることによって、日帰りもできます。他の県にあっても、日帰りできますが、県外の場合は、はやめに遊園地を出なければなりません。ですが、県内にあると、遅くまで遊園地にいることができます。それに、遊園地に来た、小さい子から、大人の人までのたくさんの人達の笑顔で明るい新居浜市になると思いました。
もう一つあります。それは、動物園と水族館です。動物や、魚などを見ていやされたら市も、明るくなるんじゃないかなと思ったからです。遊園地のように、イライラを、リフレッシュするのではなく、動物達にいやされてイライラがなくなり犯罪も少なくなるでしょう。それに、わざわざ遠くへ行かなくても市内にあると、近くにあるので、すぐ行って、すぐ帰ってこられるという、いいことがいっぱいあります。お金は、かかるかもしれないけど、近くにあったら、移動費が、少なくて、すむので、県外に行くよりお金は、そこまでかからないと思います。そうゆうことを考えると、県内、市内にあると、とても便利です。お母さんやお父さん１人のときでも、子ども達を、遊べる場所や動物達にあえる場所へつれていってあげることができます。私が、小さかった時は、遊園地や動物園、水族館へ行きたかったけど、遠いから行けないということが多かったので、市内にあると、きゅうきょ、行くことになってもすぐそこだから行けるでしょう。市内にあると、この愛媛県や新居浜市に住んでいる大人の人達や、子供達からしたら、そこは、夢のような場所になるでしょう。
新居浜市が明るくなるためには、アスレチックもつくればいいと思います。
私も、アスレチックに行ったことがないので行ってみたいという気持ちもあるし、遊園地以上のイライラやストレスから解放されるんじゃないかなと、思ったからです。アスレチックで遊び終わったあとの、気持ちは、スッキリするんじゃないかなと思ったし、市内にあると、友達とも、気軽に、行けると思ったからです。

私が、新居浜市に、あると明るくなるなと思うものは、この４つです。この、どれかがあることで、この新居浜市は、笑顔がたくさんで、とても明るい場所になると思います。この、新居浜市が、明るくなったことによって少しでも犯罪が、減って、もっと笑顔でいっぱいの市にしたいなと思います。

「明るい社会にするために」

東中学校　２年　　永井　真優

　私は、「明るい社会」にするために、みんなが楽しめる、遊園地や動物園、水族館をつくり、笑顔を増やして、新居浜市を明るい社会にしようと考えました。

　私は、笑顔を増やすため、楽しいしせつをつくればいいと考えましたが、遊園地などをつくるには、結構な大きさの土地が必要ですが、すぐには、そんな大きな土地をかくほするには時間がかかると思います。だけど、私はたくさんの人の笑顔を増やし、新居浜市を明るい社会にしていきたいから、時間をかけてでも、楽しいしせつをつくっていきたいなと思いました。遊園地以外にも、水族館や動物園、ラウンドワンなどのどの世代の人も楽しめるしせつをつくりたいなと思いました。

　私は、なぜ明るい社会にするために、楽しめるしせつをつくり、たくさんの人の笑顔を増やしたらいいと考えたきっかけは、二つあります。まず一つ目は、遊園地や水族館、動物園に行くと、たくさんの人がキラキラしていて、明るい社会にするためには、キラキラが必要だと思い、たくさんの笑顔とキラキラを増やして明るい社会にしようと考えたのが一つ目です。二つ目は、このような動物園や水族館に行くには、市を超えたり県を超えたりしなくちゃいけません。だからわざわざ遠くに行かなくても楽しめるように近くにつくっていつでも楽しめるようにと思ったのが二つ目です。なので私は、笑顔を増やして明るい社会にしようと思いました。

次に私は、新居浜市だけ、明るい社会になっても、それはそれで良くはないと思います。一つがすごく良くても周りが良くなかったらそれは良い明るい社会にはなってないんじゃないかと考えました。新居浜市だけではなく全体で見てみると、これをやめないと、なくならないと明るい社会にはならないんじゃないかと思うことがあります。まず、身近で起きるかもしれないＳＮＳでの犯罪です。ＳＮＳの中だし、一生顔も見ないし会わないしと思い動画の中の人に悪口をコメントで書いたり、実際に直接で言えない友達に対しての事などを書き込むことなどです。自分はそこまで言ってないつもりでも相手は傷つき、命を落とすことだってあります。遊園地などをつくって笑顔を増やし明るい社会にしようと考えていたけど、このような犯罪が起こると逆に笑顔が減り明るい社会には程遠い社会になるんじゃないかと思いました。ＳＮＳ以外でも、殺人、強盗、さまざ

まな犯罪が存在するこの世の中では、一向に明るい社会にはならないんじゃないかと思います。だからといって犯罪を０にすることは難しい事だと思いますが、何か自分で少しでもできることがあるんじゃないかと思います。例えば、ＳＮＳでの相手が傷つく事をかかない、家にしんにゅうされないように防犯カメラを置くなどの対策などをしたら、被害にあう人が少なくなるんじゃないかと思います。

このように私は、明るい社会にするためには笑顔が必要だと思うけど、その笑顔を減らさないために自分ができることをしていき、みんなで明るい社会にしていければいいなと思いました。

「社会ふっきにむけて」

東中学校　２年　　高橋　知歩

私は、この前友達と遊んでいる時、ポイ捨てされているごみがありました。ポイ捨などをなくすために、公園などにゴミ箱を設置したり自分でゴミ袋をじさんしたり、すると少しは、ポイ捨てが減るんじゃないのかと思いました。そしてポイ捨を減らすことで環境にも悪影響することが少しは減ると思います。

次に犯罪を犯した人達が立ち直り生活したり働いたりできるかと考えました。働く時に資格が必要な職業の場合には、前科が原因で就職する時に影響がでる可能性があります。たとえば教員・取締役・監査役等、宅建士・士業（税理士・弁護士等）・医師など、他にもさまざまな資格が制限を受けたりするそうです。つまり「前科がある」という事実のみで資格を取得できず関係ある職種への就職が難しくなります。また、前科が付く前に取得した資格であっても剥奪されるため今後の就職に大きな影響を与えるそうです。ですが資格が必要のない職業ではそうした制限はないそうです。ですが就職以外の生活面では、どうなのか考えてみました。私が思ったのは、出所した後回りの人からの批判がきたりして社会復帰や就職に時間がかかってしまったり社会復帰できなかったりする事があるんじゃないかと思いました。そこで犯罪を犯した若者を支える自立準備ホーム（なんでもでき荘）と言う、犯罪を犯した人々を一時的に受け入れる民間施設が 2021 年 12 月に横須賀市初の自立準備ホームとして登録されたそうです。このように一度の失敗で人生に傷がはいってしまったとしても、まだ人生は終わらないので、施設や、回りの頼れる大人や頼れる友達に相談すると少しでもはやく社会ふっきできると調べたり考えたりして思いました。

そして明るい社会にするためには、どうしたらいいか、明るい社会について考えました。明るい社会は、みんなが安心して生活でき、戦争のない平和な社会やお金が無くて苦しむことがない社会やいじめのない社会があると思いました。

最初にみんなが安心してくらすためには、ちゃんとルールやマナーをまもったり決まり事をつくるといいと思いました。
次に、お金がなくて苦しむ人がいない社会にするためには、コンビニなどにおいてある募金や学校などである赤い羽根募金をするといいと思いました。
最後に、いじめや悪口を無くすためには、その人の悪い所だけ見るのではなく、その人のいい所や優しい所などを見てあげる事も大切だと思いました。そして、自分の悪い所をへらしたり良い所をふやしたりするとおたがいに悪口を言わないですんだり悪口が発展して、大きなトラブルがおきたりせず少しは明るい社会にできるんじゃないかと思いました。
そして非行をおこなってしまった人でもまたとりかえしのつくことならもう一度よく考えて行動すると非行が善行にかわると思いました。結局明るい社会にするためには、よく考えて行動すると自分も、明るくなるし、周りも明るくなって非行もへると思いました。

「明るい社会に向けて」

東中学校　２年　　伊藤　光虹

　私は、明るい社会を作るために、遊園地を作ればいいと思います。なぜかというと、遊園地を作ると友達といったりして、仲が深まります。ほかにも家族とも行ったりして家族との仲も深まると思います。しかも人口も増えて、イケメンとのデートスポットにもできます。
　もう一つは、住友鉱山を世界遺産にすることです。理由は、観光客が増え、外国の人などが多くなる。人口が増える。などです。そうしたら、住友鉱山の文化などもしってもらえるし、新居浜市がとても栄えると思います。
　最後は、ラウンドワンを作ることです。今、南高がラウンドワンを作るのに取り組んでいます。私も友達と遊べる所はほしいし、あったらいいなと思いました。良いと思った理由は他にもあります。私は文化部で運動をあまりしません。なので健康な体作りのためにもいいと思います。あと、どの年代でも楽しく遊べるのもいいと思います。私のおばあちゃんが、楽しく八十代でも元気に遊べる所がほしい。と話していました。なので若い人から高年代の人まで、楽しめて運動もできるのはすごくいいな。と思ったし、新居浜市は遊ぶ所がたくさんあるといういんしょうをつけていきたいと思った。新居浜は人口が年々、減っていってると思います。私は自分のふるさとを大切にしたいので明るい社会のためにはまず遊べるしせつ「遊園地」「ラウンドワン」などを作ることがいいなと私は思いました。

明るい社会とは何かを考えたときに私が思いついたのは、幅広い年代の人が健康に楽しんで生活できる社会だと思いました。新居浜市に笑顔が広がれば自然に人口も増え、街も栄え、とてもいい社会になると思いました。これからの社会は私達若者が変えていかなくちゃならないものなんだなと改めて感じました。自分たちも社会、政治に参加して明るい社会作りにこうけんしていかないといけないんだと感じました。「遊園地」や「ラウンドワン」などのちょっとしたこうきょうしせつを作るだけでも新居浜市にたくさんの笑顔があふれると思います。私も遊園地とラウンドワンに行ったことがありますが、とても楽しかったし、新居浜市にあったらいいなと思いました。あの楽しかった思い出をもっと新居浜市でつくりたいです。

最後に、私はこれまであまり新居浜市の未来について考えていませんでした。でもこの明るい社会ということについて少し考えて、人が楽しめる要素ってこんなにたくさんあるんだなと思いました。私達中学生の力じゃなにもできないけど少しでも社会に協力することによって新居浜市はもっといい街になってもっと住みやすくなると思います。これからそういう明るい社会にできるようにがんばっていきたいです。

「犯罪の無い未来に」

東中学校　3年　　青木　幸菜

私は中学生になってから学校で学ぶ「犯罪」や「法律」について深く考えるようになりました。「犯罪」について学んでいる上で特におどろいたのは、自分の住む地域や自分と同じ年の人も今、犯罪を犯しているかもしれないという事実です。

犯罪を犯すということは、自分自身の将来もそうだし、何より自分の家族にも迷惑がかかると分かったうえでの行為で、大人の犯罪者だけでなく、未成年の犯罪者が居て、しかも犯罪が無くなるのではなく増える一方なのです。このまま犯罪が増え続けると私達の生活が疎かになってしまい、将来を担う私達もそうだし、これからの子供達にも悪影響だと私は考えました。ですが、かと言って犯罪を犯した人をそのまま見離したり、更生した犯罪者を粗末に扱ったり、差別したりするのはまた話が別だと思います。犯罪を犯してしまってはもう遅い、でもまた社会に戻ることができるかもしれない。そう思っている犯罪者もそう少なくはないと思います。そういった考えや意思を尊重し、私達で犯罪者の更生をサポートしていって改めて「助け合い」「思いやり」を感じていくんだと思います。

ですが、「犯罪者をサポート」と言っても、今の私達中学生ができることは非常に限られていて、直接会って話したりすることはほぼ不可能だと考えます。そういった中で私達にできることは、「周りの環境の整備」や「SNSへの書き込み等への配慮」だと思いま

す。周りの環境とは、誰か一人でも犯罪を犯したけど更生した人を侮辱したとすれば必ず他の人も乗っかって来るだろうし、最悪の場合、それをSNS等のインターネットで拡散して、その人はやっていないのに嘘の情報を流されてしまうかもしれないことです。私達が周りの環境を崩してしまえば、せっかく立ち直れた人もまた元の暗い心に戻って、望んでもいない再犯罪を犯してしまうかもしれません。そうなってしまっては元も子もありません。
もしかすると犯罪を無くす鍵は私達が握っていて、私達一人一人が犯罪者の更生、立ち直りについて考えて行動していけばこれからの未来、犯罪の無い未来になっていくかもしれません。犯罪者の立ち直りは容易なことではありませんが、適切な支援や取り組みを行うことで、立ち直った人々が社会に貢献し、新しい人生の一歩を踏み出すことができるかもしれません。
私は必ずしも全ての人が犯罪者の更生を良いことだと考えているとは思いません。なぜなら立ち直ったとしても犯罪を犯したことに変わりはないからです。その中でも本当に犯したくて罪を犯した人は少ないと思うし、逆に自分が犯したことを後悔して反省している人も居なくはないと思っています。なので、責めこむだけでなく、犯罪者も人間ですから、人権を持っています。立ち直ろうとしている人に救いの手を差し伸べてもバチは当たらないはずです。

「一人一人が変われば」

新居浜市立東中学校　3年　　請井　凛花

「悪い事はしてはいけません。」
今までに何回も、何回も言われた言葉です。悪い事をしたら必ず罰を受けます。だから悪い事はしてはいけないんです。みんな分かっています。でも分かっていながら悪い事をする人は大人にだってたくさんいます。だから悪い事をして怒られる時決まって私は「自分だってしたことあるくせに。」と思います。してはいけない理由を言う人が少ないからです。こら、ダメでしょ！とよく言うけど、何がいけないか説明しようとはしません。そもそも怒られるような事をしなければいい話ですが、それを完ペキにできる人はそうそういません。その中でも、法に触れるようなことをして捕まる人もいます。私が思う最もしてはいけないことです。ではなぜ法に触れるような悪い事をするのか？今まであまり深く考えたことはなかったので調べてみました。
インターネットで調べると親としての責任感が欠けている人が多いと書いていました。親は子どものためを思って、「ああしなさい。」とか「これはダメ！」などなどしつこいと感じるくらいグチグチ言ってきますが、それは親として言っておかなければ後々子供

が後悔することなので、しっかり言ってくれる親は、とてもいい親なのです。感謝しなければならないなと思いました。
反対に、先程言った事を全然子供に言わないあまりにも放任主義な親もいます。親がうっとうしいと思っている私みたいな人たちは、うらやましいと思うかもしれませんが、全然よくない事なんです。最低限のルールを知らないようでは、非行か犯罪行為につながりかねません。けど、こういったルールを教えているからといって必ずしも非行をしない子に育つのでしょうか？逆に過保護すぎても子どもにとってはいい迷惑。ストレスになるのではないか？と思いました。子供が変わるのよりも親が先に変わって、子供自身も変わる。それがベストで、再犯をすることもなくなり、何より家庭が明るくなるんじゃないかなと思います。
次に、最も気になっていた少年院に行った子供たちの事について調べてみました。少年院に入っている子供たちは社会復帰をしたあとはふつうの生活に戻れるのかな？変な目で見られないかな？これが私が心配な部分です。でも調べてみてびっくりしました。更生プログラムを一人ひとり違うオーダーメイドで作っているというのです。こんなによりそってくれる人がいるなんて安心できるなと思いました。しかも 8 割～9 割はちゃんと更生できているし、そもそも少年院に入る子は少なく少年鑑別所入所者は約五千二百人、そのうち少年院へ入所するのは約千四百人全体の 4%ほどしかいないんです。
これらをふまえ私は、まず親が子供を責任感を持っていきすぎない指導をする。これをすることによって、していい事と悪いことの分別がつき、してしまいそうになった時には自制できる力がつくようになると思いました。次によりそってあげること、相談に乗ってあげることです。何か悩みをかかえている時、自棄になって非行を起こしてしまうことがあるかもしれません。その前に、悩んでいることはない？など周りの人が声をかけてあげれたらいいなと思います。私も相談に乗れるようにしたいです。以上二点のことを意識すれば非行や犯罪の少ない地域社会になると思います。
一日でもはやく少年の非行が犯罪の少ない明るい社会に、未然にふせげる社会になることを願っています。

「私たちにできること」

角野中学校　１年　　渡邉　咲來

「明るい新居浜市」と聞いて私がイメージするのは、笑顔と活気があふれる、美しく平和なまちです。
私は小学校六年生のとき、運営委員会で活動しました。その活動の一つに「スミレンジャー」というものがありました。スミレンジャーとは、戦隊ヒーローの格好をした五

人組です。スミレンジャーにはそれぞれ役割があります。
「あいさつレッド」は大きな声で元気にあいさつをします。「きちんとブルー」はきまりをきちんと守ります。「もりもりイエロー」は、何でも残さず食べます。「助けてグリーン」は困っている人を助けます。「仲良しピンク」はみんなと仲良く協力します。
私は「きちんとブルー」として活動し、ろう下は走らず右側を通ることや、だまって掃除をすることなどを全校のみんなに呼びかけました。
私は、より良い学校にするためにスミレンジャーの活動があると思っていましたが、改めて考えると、スミレンジャーの五つの役割は、新居浜市を明るくするためにもどれもとても重要だということに気付きました。
例えば、一つ目の大きな声で元気にあいさつをすることは、地域の人たちとつながることにもなります。私は地域の人たちと積極的にあいさつをするよう心がけていますが、私があいさつをすると「今日は寒いね。」や「おかえり。」などいつも言葉をかけてくれます。温かい気持ちになるし、地域に顔見知りの人がたくさんいると安心します。
二つ目のきまりを守ることは、たくさんの人たちと気持ち良く暮らすために大切なことです。きまりがあると不自由だと思う人もいるかもしれませんが、きまりがなければだれが何をしても罰せられないので私たちは安心して生活できません。一人一人がきまりを守ることで平和な新居浜市がつくられると思います。
三つ目の残さず食べることは、美しいまちづくりにつながります。食品ロスが増えると、ごみを焼却するときに排出される二酸化炭素も増え、地球温暖化が進みます。また、好き嫌いなく何でも食べることで体が丈夫になり、健康に生きられます。もし身体が不健康になれば精神も不安定になります。そうすると犯罪や自殺に結びつきやすくなります。身体と精神は深く関わっているので、健康に生きることは明るい新居浜市をつくることにもなるのです。
四つ目の困っている人を助けることは、人を思いやることです。「助ける」というと難しそうですが、小さなことでも良いのです。私は先日飲食店で待合のイスに座り、順番を待っていました。私より後にお年寄りが来たので私は立ち上がり、「良かったらどうぞ。」と席をゆずりました。たったそれだけのことですが、その方はとても喜んでくれ、私もうれしくなりました。小さな思いやりの輪が広がれば新居浜市は今より明るくなると思います。
五つ目のみんなと仲良くすることは、差別や非行を防止することにもつながります。一人ではどうしようもないとき、助けてくれる仲間がいれば心が軽くなり、笑顔になれます。なやんだときや迷ったとき、相談できる仲間がいれば正しい道を歩むことができます。また、友達だけでなく、地域のみんなと仲良くすることで、困ったとき助け合うことができたり犯罪が起きにくくなったりします。
このように、スミレンジャーの五つの役割と関連付けて考えると、新居浜市を明るくすることは決して難しくないと感じました。学校生活や家庭での生活の中で少し意識す

れば良いのです。一人一人の小さな心がけで社会は大きく変わります。私たちの力で今よりもっとみ力的な新居浜市をつくっていきます。

「皆が支え合う地域づくり」

角野中学校　２年　　工藤　生舞希

皆さんは、普段の生活の中で困っている人を助けることがありますか？見て見ぬふりをしていませんか？私は、見て見ぬふりをしようとしたことがあります。しかし、それは間違った選択だったと気付けました。私がそのことに気付けたのは、自分の体験からです。

学校から部活を終え、帰っていたときのこと。私は薄暗くなった帰り道を友達と一緒に帰っていました。少し遅い時間になっていたので、帰路を急いだところでした。道を歩いているおじいさんを見かけました。私と友達は自転車のライトでおじいさんに気付くことができましたが、薄暗い中でライトも持っていないなんて危ないなとは思いました。けれど特に気にすることなくおじいさんを追い抜こうとしたときに、友達に呼び止められました。「急いでいるのに・・・なんで追い抜かないの？」それが、私の本音でした。なにか落とし物でもしたのかななどと考えていた私に、友達は思いも寄らなかったことを言いました。

「あのおじいさん、目見えてないよね？」

友達に言われて、まさかと思い、おじいさんの様子を見てみました。すると確かに様子が違うことが分かりました。暗いのにライトも持たず、代わりに杖をついて、おぼつかない足取りで歩いている。そのことから、私は「おじいさんは目が見えていない」ことに納得がいきました。それでも、助けるなんて考えのなかった私は、

「本当だね。」

と返しただけ。おじいさんのことは心配だったけれど、私にできることはないし、早く帰ろうと思っていました。もし一人だったなら、私はそもそもおじいさんにも気づかずそのまま帰っていたに違いありません。「助ける」ことを選択したのは友達でした。友達は私の反応を見た後に、迷いもせずこう言いました。

「声を掛けよう。あの人が行きたいところまで付き添ってあげようよ。」

少し驚いた後に迷いました。急に知らない人に声をかけるなんて。いらない世話かもしれないのに・・・。それでも友達がこれほど言ってくれているので、私も放っておけなくなって一緒に声を掛けました。内心はドキドキしていましたが、人助けはうまくいきました。おじいさんは優しい声で「ありがとう」と言ってくれて、晴れやかな気持ちで別れました。

ところが私は、助けることを迷ってしまった、見て見ぬふりをしようとしてしまったことに後悔していました。なぜ、助けるという考えが友達に言われるまで出なかったのだろう。友達に言われた後もなぜ迷ったのだろうと。そのときに気が付きました。無意識に内に困っている人のことを無視していた、関係ないと思っていたことに。

皆さんも気付いていないだけで、困った人を助けられなかったことはあるのではないでしょうか。私も、気付けたからと言って、目の前でまた困った人がいてもすぐに助けに行ける自信はありません。それでも、あのときの体験で、私は友達のような心を身に付けたいと思いました。迷いなく助ける人になりたいと。多くの人が率先して自分から助けに行けるようになったら、私の友達のような人が一人でも増えたら、皆が支え合って協力していく地域づくりができると私は思います。そのために自分は日々の生活の中で困っている人に気付いているか、振り返りたいです。

「私の習慣」

角野中学校　３年　　石丸　心結

私はあることを習慣にしています。それはごみを拾って捨てる習慣です。この習慣は小学校三年生のときから続けています。きっかけは、母と外を歩いていた時、母が道端に落ちていたごみをさっと拾ってごみ箱に捨てるのを見たことでした。母は以前からしていてこの日もいつものようにごみを拾って捨てていたようでした。

当時の私は、面倒くさくて、ごみは近くのごみ箱に分別もしないで捨てることが多くありました。しかし、母は拾ったごみでさえ、必ず分別までするのです。そんな母を見ているうちに、聞いてみたくなりました。「どうして落ちているごみを拾うの？」・・・母は「落ちているごみを拾うと、その場所もきれいになるし、ごみを拾うと自分の心もきれいになるのよ。」と教えてくれました。

そんな母の真似をして始めたごみ拾いでしたが、初めのうちは「どうして他人が捨てたごみを拾わなければならないの？」と嫌々していた時期もありました。ですが、自分がやることで、その行動を見た人が私と同じようにごみを拾ってくれるかもしれません。そうであれば、嬉しいなと今では思います。

また、ごみが落ちているということは、捨てている人がいるということです。どうして平気でごみをポイ捨てできるのか私には分かりません。しかし、今までにポイ捨てをしたことがある人は、少なくないと思います。だから、自分で出したごみは責任を持って、ごみ箱に捨ててほしいと思います。タバコ、飲み終わった空のペットボトル、噛み終わったガム、丸めたティッシュ・・・、きちんと捨てる人が一人でも増えるといいなと思います。

さて、みなさんはカメの鼻にストローが刺さり、血が出ているニュースを見たことがありますか。これはごみの分別が不十分なことが原因で、そのごみが海へと流れついたことによるものだそうです。ポイ捨てだけをやめればよいのではなく、分別までできていないとこのようなことが起こるのです。

最近、スーパーマーケットやコンビニでは分別したごみを資源として回収しています。そこに関わる人がいます。このような仕事をしてくれる人がいるから、私たちはごみを捨てることができているのです。燃えるごみ、プラスチック、ビン、缶、ペットボトル等、品目を表示してくれています。地域によっては、まだ分別が十分されていないところがあるかもしれませんが、これからは分別が当たり前、そして、リサイクルが当たり前の時代です。小さいごみだからとか、誰かが分別してくれるだろうとかを理由にして、自分が分別をしないで捨てるというのは非常識な考え方です。

私たちが住む新居浜市でも、多くの人が私たちのごみ処理に関わってくれています。カメのニュースのようなことを防ぐためにも、私たち一人一人にできることがあるはずです。ポイ捨てをやめたり、分別をしたり、そして落ちているごみを拾ったり。そんな人が増えれば、新居浜市は今よりもっと明るくなると思います。

最近は新居浜市でも、リサイクルの仕組みが考えられていたり、市政だよりなどでも、お知らせしたりしてくれています。できるだけごみを減らし、再利用することは大事だと思います。

母の習慣がなければ、私もこんな風には考えていなかったと思います。私は、そんな母に感謝しながら、これからもこの習慣を続けて、明るい新居浜市の実現に貢献したいと思います。